

とと自負できることは大きな慶びであり、各界のご支援に対し、深く感謝している次第である。

電気工学講習所は諸般の事情から京大を出て、當時工学部新設の希望を以ておられた立命館の創立者中川小十郎さんの要請で、日満工專として立命館に移ったが、現在、同大学理工学部の前身となりこういう形で今に続いていると言える。その卒業生から成る本洛友会内のデルタ会は、会員約名（卒業者総数¹²⁷⁸名）を数え、強固な団結をしておられることは大変お目出たい。青柳先生の訓えを体得して、独立自尊、自己の会社を経営して活躍して居られる方も多いことは甚だ心強い。

青柳研究所は、大正初年創立に係はるが当時、我国の電球工業界は、米国GE系の東京電氣株式会社（現在の東芝はこれと電機関係の芝浦製作所との合体したもの）の殆んど、独占的企業であること を深く憂慮され、先づこの方面的研究・実施のために創設されたもので、全田積・上林一雄・阿部清各氏を擁して、最初はタンクス テンの精製、繊條及び電球・真空等の研究から始められたもので、幾多の輝やかしい業績を挙げて、今日に至っている。本誌前号（昭和56年4月）に、立石享三氏の甚だ興味ある記述「へそ曲りの弁」

中に、小生が同所の所員であるとうに記載されていたが、これは誤りで、當時私は大学院在学中で、いろいろな教を頂いたり、相談を受けたりして居つたのが実情である。因みに立石さんは同記事にもある通り、當時種々の新らしい事業を経験して来られたが、今は専ら同氏の開発に係る「メタリコーン」一筋にしぶって活躍しておられ、青柳先生の遺訓を守り、世のためめ人のために、献身しておられるることは、敬服に堪えぬ所である。
□発明のこと 青柳先生は、當時において率先して、科学技術の振興を謀り、特にその根源である發明の重要なことを力説されたことは、その他もろもろの教訓とともに、私共学生に深い感銘を与えた。そんな訳で、私も先生の驥尾に附して、幾らかの發明をしたが、全国表彰の發明大賞を与えられたこともあり、聊か先生のご期待に副うことも出来た。

洛友会の一員から嬉しいお話を聞いたが、それによると、今、米国の有名なテキサス・インスツルメンツ社から交渉があり、うまく纏まれば月々一千万円の収入になるとのことであった。その半分にでも物にして欲しい。近來の快心事として切にその成功を祈る。

□偶然・発明・発見には「偶然」に幸いせられることが多い。フランスの有名な医学者であったバストールは、「偶然は準備なきものには幸いしない」とも云つたが、常に用意あるもの注意を払っているものに、幸いすることは多くの事例を挙げることが出来る。偶然は、あらゆる所、到る所で起つてゐるであろうが、これを提えるか否かは、その人の心掛け、注意力・能力によつてちがつてくるであろう。常に準備している者に、偶然は天の啓示ともなり、閃めきともなつて発明・発見に繋がることが多い。常に何かを考えていること、触角を広げていることが必要と思われる。

私共科学者・技術者は、兎角從來の權威やオーソドックスに捉われ易い。笑のな思い切つた従来の考え方や理論に反することには、余程の勇気と自信が必要である。今世紀初頭最大の理論であるプランクの量子論やアインシュタインの相対性論でもそうであった。新

らしい理論は学界における革命であり挑戦である。この点、発明はもの或は方法に係るものであるから、現実に実証できる。我々の発想・着想或は夢は、従来の既成事実に捉われず、自由奔放に脳裡を駆け巡ぐるであろうが、将来現実化し发展する可能性のあるものも甚だ多いようにも思われる。殊に青少年の夢には特に興味深いものがある。

々たる方々が居られることは慶ばしい。大きな会社で社長は一人だけおられることは誠にお目出度いことである。電力会社の社長と言えば、その地方における技術界・政財界における指導的地位にある人であるから、その責任は重大である。切にご自重ご加餐の程をお願いする。こう言う人達は、勿論、その才能・力量に因ることは勿論であるが、幸運に恵まれた人達であり、よく人生行路に「運・鈍・根」と云われることがあるが好運の人と言える。しかし殆んど人はこう云うことは望むべくもないが、しかし一隅にあつて清く正しくその一隅を照らしている人も、亦誠に尊とい立派な人達と言える。

であるが、日本の学徒にもそういう傾向が無きにしもあらず、警戒を要することである。日本の大学は、その範をドイツの大学に学んだのであるが、今は逆になって来た。日本の科学技術殊にエレクトロニクスは、欧米でも高く評価されて、米国でも協力を強く要請されていることはご承知の通りである。この際、一層謙虚に世界の期待に応えて行きたいものである。

□卒業何周年記念集会 今年は、
ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒

鈴木 茂

茂

ソ連領シルクロードの旅
ある交通社のパックツアーに我等夫婦は参加した。

中国領シルクロードは東は西安から蘭州・敦煌を経てカシュガルで終ることはNHKの放送により智識を得て居るが、ソ連領シルクロードに関しては未知の世界である。

早速旅行紀を買込んで読んで見た。これによると中国領を西へ出る

と、天山山脈とパミール高原を南北に分けるフェルガナ渓谷へつづく。カシュガルから西へ伸びる街

道はこの渓谷を通ってタシュケン

タシケントで道は二つに別れ西北へ延びる街道は南ロシヤを経てヨーロッパへ通じ、南へ延びる街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

トに至る。渓谷には天山の永河に源を発して西南に向けてルシルダリヤ(河)が流れ、流域は沃野である。ルシルダリヤは渓谷を出ると向きを西北に更にタシュケントの南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結びフェルガナを東西に貫く街道がシルクロードの主要路の一つである。ソ連領シルクロードの地図を下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ西北へ延びる街道は南ロシヤを経てヨーロッパへ通じ、南へ延びる街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

タシュケントで道は二つに別れ

西北へ延びる街道は南ロシヤを経

てヨーロッパへ通じ、南へ延びる

街道はサマルカンドへ通ずる。

サマルカンドの南で道は二つに

延びる。

ソ連領シルクロードの旅 (1)

昭和七年卒 鈴木 茂

茂

トに至る。渓谷には天山の永河に

源を発して西南に向けてルシルダ

リヤ(河)が流れ、流域は沃野で

ある。ルシルダリヤは渓谷を出る

と向きを西北に更にタシュケント

の南を流れアラル海へ注ぐ。

カシュガル、タシケントを結

びフェルガナを東西に貫く街道が

シルクロードの主要路の一つであ

る。ソ連領シルクロードの地図を

下に示す。

附近の観光

サマルカンド泊

三月二二日 サマルカンドから

ブハラへ ブハラ泊

三月二三日 ブハラ発 タシユ

ケントへ タシユケント泊

三月二四日 午後タシユケント

到着 発ハバロスク泊

三月二十五日 午前ハバロスク

新潟へハバロスク泊

三月二六日 ハバロスク発

新潟へハバロスク泊

三月二七日 ハバロスク泊

三月二八日 ハバロスク泊

三月二九日 ハバロスク泊

三月三十日 ハバロスク泊

三月三一日 ハバロスク泊

三月三二日 ハバロスク泊

三月三三日 ハバロスク泊

三月三四日 ハバロスク泊

三月三五日 ハバロスク泊

三月三六日 ハバロスク泊

三月三七日 ハバロスク泊

三月三八日 ハバロスク泊

三月三九日 ハバロスク泊

三月三〇日 ハバロスク泊

三月三一一日 ハバロスク泊

三月三二二日 ハバロスク泊

三月三三三日 ハバロスク泊

三月三四四日 ハバロスク泊

三月三五五日 ハバロスク泊

三月三六六日 ハバロスク泊

三月三七七日 ハバロスク泊

三月三八八日 ハバロスク泊

三月三九九日 ハバロスク泊

三月三一〇日 ハバロスク泊

三月三一一日 ハバロスク泊

三月三一二日 ハバロスク泊

三月三三三日 ハバロスク泊

三月三四四日 ハバロスク泊

三月三五五日 ハバロスク泊

三月三六六日 ハバロスク泊

三月三七七日 ハバロスク泊

三月三八八日 ハバロスク泊

意をした。関西からの参加者は八名で、三月一八日大阪空港を出発し、翌日新潟空港で他地方の参加者と合流し男女合計二〇名の旅行団が編成された。交通社の女性添乗員一名がこれに加つた。

新潟からと別の旅行団三五七三名が乗組んだ。シルクロード観光は、今やブームになつた観があつた。

新潟へハバロスク泊

三月一九日

JALは定刻一三：〇〇新潟空港を出発し空路二時間でハバロス

クへ着陸した。今回の旅行で定刻通り事が運んだのは往復のJAL便だけであった。

JALは定刻一三：〇〇新潟空

港を出発し空路二時間でハバロス

クへ着陸した。今回の旅行で定刻通り事が運んだのは往復のJAL便だけであった。

早速便所の偵察をしたが、トイレットペーパーは備へてあると報告する。インツーリストの添乗員ディアナ女史が出迎へた。身長一八〇センチ位のアラスカ？ 堂々たる恰幅のロシヤ女である。彼女は英語を話すが、日本語は駄目であった。後一週間彼女と行動を共にした口数の少い無愛想なロシヤ女で爾に笑顔を見せたが、遂に笑顔を見せなかつた。インツーリストは国営であり、従つて彼女はソ連の官吏であると云うことであろうか？

宿舎ノインツーリストホテルは河畔の小高い丘の上に建てられ、一〇階位はあるうが、堂々たる建物であつたが、中味は質素でトイレ、ベッド、シャワー、トイレ付と云う宿泊に必要な設備を一應整へてある。装飾等が一切なくしてY.M.C.A.にでも泊つた感じであった。

午後の時間を、バス観光で費した。もう一人の女性ガイドが添乗する。彼女は日本語を話す中年女性で愛想が好い。

ハバロスクの市街は広野に新しく建てられた街で、基盤丘状に区画され道巾も広い、革命を記念するモニументが矢鱈と多い。

店外に若い男の闇屋がうろついている。カメラや煙草を買取らうと云うらしいが、言葉が通じない、この男はしつこくて我々一行をホテルまでつけて来た。

ホテル、帰り昼食をすませ、い

見えるが、通行の人々の毛皮の帽子、厚いオーバーと云う服装である。女性にブーツをはきストッキング姿の一行中の女性を珍らしそうに見る。

宿に帰ると明日の飛行機の出発は午後に延期されたとディアナが云う。空港に沢山並んだ大型機は皆故障なのか、それとも乗員に事故があったのか。A.E.F.は割合頼りない。

三月二〇日

午後の出発に備へて荷物をまとめて室外に出し、その後の一时刻をShopingに費すことになった。

ペリヨーヴカと云う外貨専用売店が、市内にあるので其処を訪れた。商品の値段は市内の一般商店よりも廉価であると云う。土産物をこの時点で買う必要は毛頭ないが、矢張り財布の紐を緩めざるをえない破目になり若干の買物をした。

店が、市内にあるので其処を訪れた。商品の値段は市内の一般商店よりも廉価であると云う。土産物をこの時点で買う必要は毛頭ないが、矢張り財布の紐を緩めざるをえない破目になり若干の買物をした。

四と五人の女性の売子がいたが、彼女等も、大ソ連の官吏であるの

で頻る愛想がない。買物をしても

"スプラシーボ"とも云わない。

販売努力をするかけらも見えない。

市街には既に春が訪れた気配も

見えた。

博物館があるので、それを参觀する、帝政時代に建てられたと云う古い煉瓦建物でハバロスク最古の建築の一つである。

この地方の風土、歴史を紹介する資料が陳列してあつた、朱鷺の標本もあつたが既に絶滅したと云う。この美しい鳥も、佳人薄命の例に洩れず繁殖力が弱いのである。

近代史の部屋にはロシヤ革命の経過と成果を誇示する陳列品が

でかでかと並べてある。これら逐一案内されたので、うんざりした

が、止めもガイドに課せられたノルマである。

館はウスリィ河畔にあり、館外の小高い丘が、展望台になつていて、此處からの景観は印象に残る。ハバロスク市にアルトル河とウスリィ河の合流点に在る。ウスリィ河は支流であるが、支流とは云へ、大きな河で信濃川の何倍とも云ふ河幅があり、細長い湖沼と云つた感じである。河面は凍結して水厚い約六〇cm、十面の白雪に覆われ、中流には大きな島があり、別荘地になつていて、往来の人が多く、川面を交通するのが望見される。対岸は広大な原野と森林

ざ出発と云う直前になつて、今度は中央アジアが暴風雨で又出発延期となつた。暴風雨では止むを得ない。

ホテルの横の樹立の中に郷土史博物館があるので、それを参觀する、帝政時代に建てられたと云う古い煉瓦建物でハバロスク最古の建築の一つである。

この地方の風土、歴史を紹介する資料が陳列してあつた、朱鷺の標本もあつたが既に絶滅したと云う。この美しい鳥も、佳人薄命の例に洩れず繁殖力が弱いのである。

近代史の部屋にはロシヤ革命の経過と成果を誇示する陳列品がでかでかと並べてある。これら逐一案内されたので、うんざりしたが、止めもガイドに課せられたノルマである。

この地方の風土、歴史を紹介する資料が陳列してあつた、朱鷺の標本もあつたが既に絶滅したと云う。この美しい鳥も、佳人薄命の例に洩れず繁殖力が弱いのである。

近代史の部屋にはロシヤ革命の経過と成果を誇示する陳列品がでかでかと並べてある。これら逐一案内されたので、うんざりしたが、止めもガイドに課せられたノルマである。

館はウスリィ河畔にあり、館外の小高い丘が、展望台になつていて、此處からの景観は印象に残る。ハバロスク市にアルトル河とウスリィ河の合流点に在る。ウスリィ河は支流であるが、支流とは云へ、大きな河で信濃川の何倍とも云ふ河幅があり、細長い湖沼と云つた感じである。河面は凍結して水厚い約六〇cm、十面の白雪に覆われ、中流には大きな島があり、別荘地になつていて、往来の人が多く、川面を交通するのが望見される。対岸は広大な原野と森林

で下流にはシベリヤ鉄道の鉄橋が見えた。

上流には四本の高煙突が立並び黒煙を遠慮会紙なく、濃々と吹き上げていた。市民に電力を供給する火力発電所であると云う。温排水の流れは氷を解かし、一条の滝層に上昇を妨げられ、長く風下に尾を引き、地面に舞い降りてあたるを暗くしている。景観が非常に鮮かに見えた。但し村落も人家もない原野が続くので公害は起きよう等もない。

語源あれこれ

講大10年卒 中村秀治

元の木阿弥

知らずに平氣で便われているのが日本の語源です。そこで語源について書きました。税法改正の趣旨を知らないと飛んでもない目に会います。それと同じ様に語源を知らぬと恥をかくことがあります。二人の語源問答にしばし時間貸をして下さい。

『語源と云えば言葉の持つ意味はわかつていても、どんな原因でできた言葉かなあ……と考えさせられることが沢山あるね』

『そうなんだ。時に元の木阿弥。洞が峠をきめ込むという語源を生

腕白共が数人集めて来る。白暫

んだ人物』

『その通り、中々のもの知りだね』

『その順慶と元の木阿弥とはどんな関係があるのかね』

『おあり名古屋の金の鮎ほこだ』

『じらさないで、早く聞かせろよ』

『然らば本論にはいろいろ。大和郡山の城主筒井順慶幼少の折り、父の順昭が死亡した。当時は戦国時代で、そのことがうつかり他國にもれては大変、鶴の目鷹の目に見て居る周囲の武将が弱味につけ込んでどんな難題を持ち込んで来込んでも限らない。そこで、これは当分内密にして置こうと、家老連中相談の結果、亡くなつた城主順昭と顔や年令の似通つた人物を探し、城主に仕立てて領民を誤魔化そうと云うことになり、近郊近在を秘かに物色して歩いた。ところが丁度よい具合に、奈良のお寺に木阿弥という僧侶が見付かったので、無理矢理連れて来て城主に仕立てた。

『筒井順慶と云えば明智光秀と豊臣秀吉との山崎合戦の折り大阪淀の岩清水八幡宮近くの洞が峠に陣取つて、どちらが優勢か？勝目のある方に加担しようとした様子を伺つて居たが判断がつきかねて、自らの居城の大和郡山に引上げてしまふ。二人の語源間答にしばし時間貸をして下さい。

『語源と云えば言葉の持つ意味はわかつていても、どんな原因でできた言葉かなあ……と考えさせられることが沢山あるね』

『そうなんだ。時に元の木阿弥。洞が峠をきめ込むという語源を生

寺に返した。お寺に戻つた木阿弥さん元の僧侶に逆もどりで、元の木阿弥となつたと云う次第』

『なるほど、よく判つた。しかし、税法の世界には元に戻るといふようなことはないかね』

『仮の税制というものがないからそれはないだらう』

『牛に曳かれて善光寺詣り

牛に曳かれて善光寺詣り

牛に曳かれて善光寺詣り

長野の善光寺の近くに無信仰で欲張りのお婆さんが住んで居りました。ある朝洗濯物を庭先に干していると、つないでおいた牛がどうしたわけか綱がはずれて逃げ出しこの牛が赤い腰巻だったのです。お婆さんは干していた干物を角の先に引掛けてしまいました。その干物が赤い腰巻だったのです。お婆さんは干していた干物を角の先に引掛けてしまいました。その牛が赤い腰巻だったのです。お婆さんは干していた干物を角の先に引掛けてしまいました。この牛が昂奮して馳け出しました。これに気がついたお婆さんおおわて、自分の腰巻を持ってゆかれてしまふ。牛が走り込んだ先に、お婆さんが干していた干物を角の先に引掛けました。赤い腰巻を角に引掛けた牛はどんどん走つて行く。後を追いかけるお婆さん、取り戻したい一念でこれで行きました。牛が走り込んだ先が善光寺さんの境内、そして漸く止まりました。息せききつて駆け込んで来たお婆さん、やつと追いつき牛の角から腰巻を取り戻し、やれやれと胸をなでおろしました。落ち付いて辺りを見廻すと立

派なお寺。"ああ、これが有名な善光寺か!!"こんな立派なお寺さんはならぬにかと御利益があるだろう。信仰より我欲のためにお詣りして行こうと拝殿に額きうやうやしく拝みました。

以上が"牛に曳かれて善光寺詣り"という言葉の語源です。ところで問題を起した『赤い腰巻』の由来に就いて面白い一説がありますので、ついでに御披露させていただくことにしましよう。

昔々、南方の熱い島国に沢山の土人が住んで居ました。熱い気候の土地なので、住民は一絲まとわぬ真っ裸の生活。遠目には男女の性別の見分けがつきません。そこで年頃の色氣付いた娘さん、男性の気を引こうとひと工夫、案出したのが局部に赤い布をぶら下げる事。それに気付いた男性、近寄つてみると年頃の若いピチピチた女性、男性に大いにもてて居たという次第です。ところが他の女性それを知り、自分も赤い布を付けようと真似ることになり、赤い布をつけた始性が次ぎ次ぎとあらわれだんだん増えてきました。競争の原理は今も昔も変わりありません。最初は小さい赤い布でしたが、効果を有効にと考えて布は段々幅を広げ、とうとう腰を一廻り巻く様になり、やがて、腰巻と呼ばれるまで発展してしまいました。

た。だから、わが大和民族は南方から渡來した民族だといわれてゐるとか。庄重や歌磨呂あたりの浮世絵に濃艶な遊女の裾の蹴出しか

電気系教室の改築について（第3報）

電気工学科第二学科 教授 近藤文治

過去二回に亘って、洛友会報でお知らせしました電気系教室の建替えは、その後順調に進んでいます。

元の本

電気工学科の構想について述べましたが、その構想に従い、銀杏の樹面に面した西側の赤レンガ造

二階建一棟（以下これを西棟と呼ぶこととします）と、南側東寄りの鉄筋コンクリート造三階建（

階は学生実験室一昔は製図室一二階が教援室の建物で、これを分館と呼ぶこととします）だけを残し

その他の古い建物の殆どすべてを取壊し、跡地に新しい建物を建てるための準備として行われた埋蔵文化財の調査も完了しました。

前記二つの建物は、電気工学科

二学科の建物（鉄筋コンクリート造、地下一階地上四階）と共に新

しい電気系教室の一部となりま

す。ただし、西棟は外観はそのまま保存し、内部は改造する予定であります。現在は新しい建物の設

ら赤い腰巻が見える絵がありますので、相当古い時代に渡來した民族ということになると思いますがいかがでしょうか。



既報で建替えの構想について述べましたが、これについては次回お知らせすることとし、今回はまず埋蔵文化財の調査結果についてご報告致します。

調査は二回に分けて行われました。

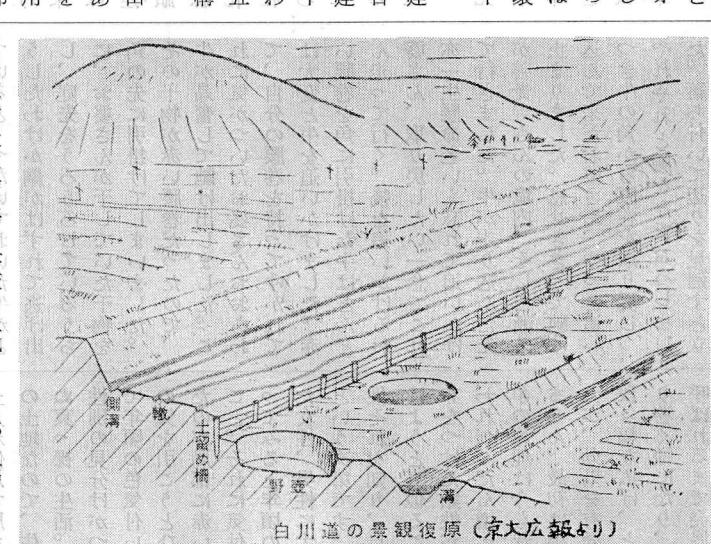
第二回埋蔵文化財調査の模様 向うに見える建物は電気第二の建物で、南から北方を望んだ写真である。

計画を施設部との間でつめていますが、これについては次回お知らせすることとし、今回はまず埋蔵文化財の調査結果についてご報告致します。

第二回は、電気・電子工学科の建築のため、西棟及び分館以外の古い建物を取壊した跡地のうち、建築予定地を中心にして、昭和五十五年七月から十一月にかけて行われました。調査面積は合計一、五〇〇平方メートルで、「白川道」の遺構の調査を目的に行われました。

当「白川道」は山中越・志賀の山越・白川敷道など多くの別称がありますが、古代以来、京と近江を結ぶ主要道路として、頻繁に活用された道であります。京大の本部キャンパスの東門を出たところから斜めに今出川通に出る道と、東一条から医学部の北沿いに荒神橋に抜ける道が今まで残っています。これを結ぶと、本部キャンパスの真中を抜け、丁度電気系教室の敷地を通ります。

文久二年（一八六二）～明治五年（一八七〇）の間、京大のいまの本部構内付近には、徳川尾張藩の京屋敷がありました。明治二十年（一八八七）屋敷跡に第三高等中学校（後の三高）が創設され、



明治三十年第三高等中学校の土地と建物を譲り受け、京都帝国大学が設立されたのであります。第三高等学校はこれに伴い京大の南側旧三高の土地（現在の京大教養部のキャンパス）に移りました。

第三高等中学校の建設に伴い「白川道」は分断され、今日に至っております。

発掘調査の結果、電気工学科の南棟のほぼ中央付近から、東北に向けて斜めに走る「白川道」の遺構が、地下約五〇cmと一m位のところで発見されました。見付かっ

た。「白川道」は近世（江戸期）のものとされる。そこで、この道に代つて、今出川口からのこの道に代つて、今出川の知恩寺の前を通じ、北白川村に至る新道（いまの今出川通）が主な輸送路となり、荒神口からの道がさびれるに至ったためである。

と考えられます。

電気教室付近の「白川道」は、時の経過と共に、少しづつ南へ移動して作られたこともわかりました。また道は緩斜面に作られたため、復元図にありますように、道の南側には土溜めの柵が設けられていたようで、柵を支えるため、径が10cm位の杭を40~50cmの間隔で打込んだ跡が見付かっています。さらに道の南側には、道路に並行して野壇の跡が整然と並んでいたようです。この付近では、かつては瓜や柿のような多肥性の作物が栽培されていましたが、それが水田耕作に替るようになってから、これらの野壇はかえりみる人もなく、土中に埋もれてしましました。

調査によって見付かった「白川道」は、出土品から江戸中期以降のものと考えられます。文献の上では、その起源は平安時代と思われます。また鎌倉・室町時代には、美濃路が京と鎌倉の間の往還に利用され、北陸路の物資が琵琶湖上を経て、阪本から山中越(白川道)によって京へ運び込まれました。今回の調査では、この時代の「白川道」を確認するには至りませんでした。しかし、前述の近世の「白川道」の遺構の南側に近接して、ほぼ平行に走る中世期末の溝が発見されました。これは中

の溝が発見されました。これは中

世の「白川道」に、ものかと推測されます。いづれにせよこの付近に中世の「白川道」が存在したことは確実であります。

さて、今回の調査では道路遺構の他に、鎌倉時代の「土器溜り」と称せられる遺構が見付かり、土器・瓦などの遺物が大量に出土しました。このことから付近に瓦葺きの建物が存在したことは確かであり、今後構内の中世の遺跡を考える上で重要な手掛りを与える

調査です。さすがに、土器溜り

の報告書の要約であります。電気教室の歴史を考える上で何かのご参考になればと思いご報告申し上げます。夏の暑い一時、寝転びながらでも読んで頂ければ幸いです。

以上が京都大学構内遺跡調査会

の報告書の要約であります。電気教室の歴史を考える上で何かのご参考になればと思いご報告申し上げます。夏の暑い一時、寝転びながらでも読んで頂ければ幸いです。

1. UHD発電に関する研究

微量のアルカリ金属を混入した導電性高溫ガスを高磁場中に流入させ、熱エネルギーを直接電気エネルギーに在来の方式より高効率で変換する方式の確立を目的としたものである。この方式は、在来の方式の熱効率が40%前後に対して、50~60%にも改善できる可能性を有しております。現在米ソや我が国で石炭や天然ガスを燃料とするUHD発電の研究が鋭意行われている。この問題に関連して次の4つの研究を進めています。

(a)

UHD発電の動特性に関する研究。UHD発電では、熱入力の一定条件下でも、負荷変動がある。この問題に関連して次の4つの研究を進めています。

(c)

化石燃料燃焼ガス-希ガス熱交換器に関する研究。比較的の低い温度のガスで、大出力密度実現可能な非平衡電離UHD発電方式用の熱源に関する研究であり、とくに熱交換時に希ガス中に混入する不純物の物理的化学的挙動を理論実験両面で明らかにすることを目的としている。

(d)

非平衡電離プラズマの電離不安定性と、その制御に関する研究。非平衡電離プラズマではホール係数が臨界ホール係数を越すと不安定波が生じ、その結果実効導電率や実効ホール係数が小さくなり発電機特性が劣化する。本研究は理論実験両面でその機構を解明し、発電特性の改善を図ろうとするものである。

(b)

溶接研究部門が電気工学部門に改められ、更に昭和30年代前半から行われてきたUHD発電(電磁流体発電)に関する研究である。当初、高温ガス原子炉の利用を想定して、希ガスを用いる非平衡電離形或はクローバード・ループ形に主点をおいて業績をあげてきました。最近は、核融合炉からのエネルギー取出しに関する研究も行い、荷電粒子の捕集法の開発について、文部省科学研究補助金の強力な援助を受け、全国的にみて

この方面の重要な拠点となりつつある。また一方、原子力プラントを一つの巨大なシステムとしてとらえ、特に安全性に関連して、システム的な理論研究も併せて行つてある。詳細を記せば左のようである。

UHD発電機に関する研究。低ホール係数下でも良好な発電性能をもち、かつ単一負荷が可能な両発電形式の特性をコンピュータ・シミュレーションにより明らかにし、更にその性能を改善する方法について研究を行つてある。

務技官であり、大学院生は博士後

研究室紹介

原子工エネルギー研究所

粒子線工学研究部門

原子工エネルギー研究所は、昭和46年に工学研究所の名称変更によ

る。

期課程1名、修士課程4名であ

る。

本部門の研究内容は多岐にわた

り誕生したもので、現在宇宙キャ

ンバスに在り10部門からなる。

旧工学研究所時代の昭和25年、

溶接研究部門が電気工学部門に改

められ、更に昭和36年、電気工学

部門が改められて粒子線工学研究

部門となり、阪口忠雄教授がこれ

を担当、その後同教授の工学部転

出に伴い、昭和40年に服部嘉雄教

授が担当することとなつて、今日

に至つている。現在の本部門構成

員は、吉川潔助教授、石川本雄助

手、督寿之及び田中大二郎の両教

授が担当することとなつて、今日

に至つている。現在の本部門構成

員は、吉川潔助教授、石川

の研究は少ない。本研究は炉心工学的問題、とくに漏洩プラズマの粒子処理(エネルギー回収、排気)に重点をおき、次の4つの研究を行っている。

(a) 核融合炉からの直接発電に関する研究。核融合炉の炬火から損失するプラズマのもつエネルギーや、中性粒子入射装置における非中性化イオンビームのもつエネルギーの電気エネルギーへの直接変換は、炉の総合効率の向上、壁負荷の軽減を図る上で重要である。本研究では、荷電粒子のエネルギーを静電場や電磁場との相互作用を介して直接電気エネルギーに高効率で変換回収する手段を開発することを目的としている。

(b) 開放系核融合炉の設計に関する研究。プラズマ閉じ込めが実証されても、実用化迄の過程では、炉心工学や炉工学に関連した諸問題の解決が必要であり、更に炉の機能としてそれらが十分に整合されていることが不可欠である。本研究は炉設計の自由度の高い開放系核融合炉を対象として、主として核熱ならびに直接エネルギー変換に関連した設計研究を行っている。

(c) 慣性核融合炉第一壁の保護に関する研究。第一壁は、炉からの大いな熱負荷や圧力負荷

を直接担わねばならず、設計上困難な問題となっているが、本研究では、第一壁上に液体リシウムを流し、これらの負荷の軽減を図る方式についての研究を行っている。

(d) 液体金属排気方式に関する研究。プラズマ閉じ込め性能の良好でない方式の炉では、炉経済性の観点から高効率エネルギー回収が必要となるが、同時に効率の良い粒子排気も不可欠である。本研究では、液体金属表面に漏洩プラズマ粒子を埋め込む新排気方式の研究を行っている。

3. システム理論に関する研究
原子力システムのようだに大規模かつ複雑な体系の諸問題を考察するときには、常にシステム的視点が明確でなければならないので、いわゆるシステム理論に属する問題の若干について継続的な研究を行っている。

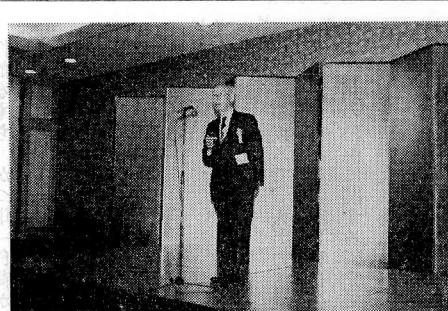
(a) 大規模システムの信頼性と安全性に関する研究。数理計画法を用いて最適設計を求める方法について研究を続行している。原子炉の安全保護系の設計に当つては、不作動と誤動作の2種類の故障に起因するサービス題と

このもので、従来、大規模グラフの処理に関するアルゴリズムの開発、情報・交通ネットワークの確率的結合の向上等に関して成果をあげており、更に研究を続行中である。

以上のよう、本部門は種々の重要分野の研究に日夜頑張っていますが、洛友会員は皆次第であります。洛友会員は、各兄の御理解と御支援を賜わらば幸いと存じます。

昭和23年卒服部嘉雄記

昭和五十六年洛友会総会



昭和55年度収支決算

昭和55年4月1日から昭和56年3月31日まで

収入の部		(単位 円)
科 目	決 算 額	予 算 額
会 費	5,856,500	6,100,000
〃 (講習所)	610,500	600,000
預 金 利 子	253,145	260,000
広 告 掲 載 料	2,049,000	2,000,000
雜 収 入	94,300	80,000
収 入 計	8,863,445	9,040,000
前 年 度 緑 越 金	5,506,000	5,506,000
合 計	14,369,445	14,546,000

支出の部

科 目	決 算 額	予 算 額
名 簿 編 集 費	2,740	45,000
〃 印 刷 費	4,300,000	4,300,000
〃 発 送 費	917,370	850,000
会 報 編 集 費	3,900	10,000
〃 印 刷 費	777,900	650,000
〃 発 送 費	953,125	1,100,000
備 品 費	0	35,000
通 信 費	108,950	130,000
会 合 費	258,948	150,000
總 会 費	360,000	400,000
集 金	187,165	140,000
消 耗 品 費	94,570	70,000
応 研 謝 礼 費	360,000	360,000
旅 蹴 費	436,080	600,000
懇 話 会 補 助 費	200,000	200,000
支 出 計	8,960,748	9,040,000
次 年 度 緑 越 金	5,408,697	5,506,000
合 計	14,369,445	14,546,000

預金および現金 (昭和56年3月31日現在)

信 定 当 普 郵 現 金	1,000,000
預 期 通 便	2,330,572
預 金 金 金 替 金	241
預 金 金 金 替 金	1,911,571
預 金 金 金 替 金	776
預 金 金 金 替 金	165,537
合 計	5,408,697

私ども昭和十一年卒業生は今年が卒業四十五周年に当るので、去る五月十五日葵祭に合せて、京都で記念会を催した。卒業時の四十名は現在二十四名になつてゐるが、当日出席は十三名で、些か寂しかつたのを、ご夫人連四名に華を添えてもらい、計十七名の集りとなつた。

松田先生は現在御健在の唯お一人の恩師で、これまで五年毎の集りに毎回御出席頂いていたが、今年は洛友会中国支部総会と重なつて御出席頂けず、誠に残念であつた。

当日午前、大部分の者が下鴨神社横の日新電機石村亭に集合。ここは谷崎潤一郎の旧邸で、折からこの新緑の庭園が見事であった。十時からすぐ前の神社参道で、葵祭の行列を見学。日頃、精進のよい者ばかりなので、好天に恵まれ新緑薫る紅の森にくり広げられた。王朝絵巻、平安の昔の美女達の姿に、しばし時を忘れる思いであった。

京料理弁当で昼食後、ご夫人連は観光へ、元学生達は昔に戻つて電気教室へ登校した。近藤教授の御案内を頂き、赤煉瓦の教室や大銀杏に往時を偲び、またイオン工

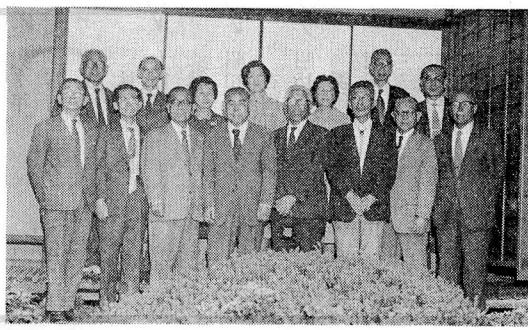
同窓会記事

学実驗室を参観して、山田助教授のお話を伺い、現代最先端の研究に、ただ目を見張るばかりであった。

十五時、鹿谷の住友博物館へ、ご夫人連も合流して、中国古銅器を観賞。その後「哲学の道」の匠庵で抹茶など頂き、少々風流を味つて石村亭へ戻る。

この日は、三千年の古代から現代の最先端まで、しかも学術文化芸術から風流に至るまでのまことに広い分野に亘る勉強をした次第であった。

十八時、昼間不参加も加つて全員が集り、本番の宴会。先づ亡友の冥福を祈つて黙祷を捧げた後、酌人も入つて、飲み食い、



この日は、三千年の古代から現代の最先端まで、しかも学術文化芸術から風流に至るまでのまことに広い分野に亘る勉強をした次第であった。

十八時、昼間不参加も加つて全員が集り、本番の宴会。先づ亡友の冥福を祈つて黙祷を捧げた後、酌人も入つて、飲み食い、

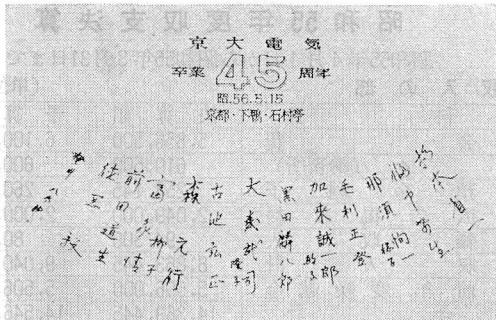
昭和56年7月20日

は『40周年は是非京都で』との要請により、昨年5月頃から数回に亘り関西側の幹事連が集って検討調査の結果、昭56・5・9(土)・10(日)一泊三日の間、母校・嵐峠館・嵯峨野の辺で開く事として開催通知を三月に配った。

新緑に風薰る五月九日午後、赤煉瓦・公孫樹の下に馳せ参じた級友23名(現存会員43名の54%)、夫

共振会（昭16・3）

語り、かつ歌う、賑やかな席となつた。



人5名、孫(坊ちゃん)1名で総勢29名は電気総合館3階会議室に通された。遙々韓国ソウルから初出席のソウル大学名誉教授・禹亨疇君の土産の人蔘茶を喫しつつ開会、近藤先生の教室近況報告があ

つ
た

私共在学当時は講座数・人數・設備共約3倍に発展したとのこと、電気系建物増改築経過について、解体と再建との間に繊密な埋蔵文化財発掘が行われ、川端荒神口から東一條・北白川へ斜めに通じていた旧白川街道が電気系敷地の一角を探めていて、昔日の斎時用土器収藏の跡や地層別年代考証成果があつた由。赤煉瓦造の永久保存の計画等を頃聽いた。引続き

伊藤の言論等に取扱いが、田山の
長尾先生の画像情報処理の研究室
や、高水先生のイオン工学研究施
設の活動の現況を巡歴し、ここ
屋上で陽光に映える如意ヶ嶽・吉
田山の風光を賞し、岡田先生の超
電導性高分子の研究を聴く等、

電導發電機の研究室の見学を済ませ、タクシーに分乗、17時少し前
に母校を辞去、嵐峠館に向つた。

夕刻恩師羽村・清野両先生をお迎えして大広間で記念撮影後宴会

に入つた。最近物故された藤田和也・吉田武彦両氏を偲びげ冥福を祈つた。羽村先生は私共卒業の年

の教室主任、就職担当をされたが卒業記念アルバムに載っている色紙のご揮毫の文章の出所のご説明

と、健康に気を遣い過ぎず、自然に住して生活して来られたご経験談と、実験ご担当の清野先生の「本に無理とさせざる々生活」を



一同の近況報告歎談は尽きず九時過お披きにし、海外研修のスラードを観た。翌十日朝船で渡月橋汽船・觀光道路をへて、東山左阿寺で昼食に談笑し、五年後の再会約しつつ諸行事を終え解散した。〔他年度幹事各位に提案すると、秋シートズンに此種クラブ会の日が、各支部総会と重なることもあり得るので、予め洛友会事務局に照会さて支部行事と重複しないよう開催日の決定をされるのが宜しいかと思う。〕

(幹事永安・小林・嘉田 前田・則内・岡田 記す)

講昭2年	黒沢八千雄	55	11	22
講昭7年	宮道正信	56	3	7
講昭7年 酒井	宮崎佐加枝	56	3	7
大7年 林堅太郎	宮崎佐加枝	56	3	7
大9年 林堅太郎	宮崎佐加枝	56	3	7
大15年 林堅太郎	宮崎佐加枝	56	3	7
昭10年 香山日出雄	芳樹	56	3	7
昭15年 浜田誠一	芳樹	56	3	7
昭18年 三龜幸雄	芳樹	56	3	7
昭21年 向井英	幹雄	56	3	7
昭26年 元木	幹雄	56	3	7
昭31年 相馬敬司	幹雄	56	3	7
大昭8年 増田盛雄	中田吉蔵	56	3	7
大昭8年 増田盛雄	中田吉蔵	56	3	7
以上の方々がご逝去なさい ました。謹んで哀悼の意を表 します。				